

| | | | | | |
|------|----------------------------------|-----------|------------|--------|-----|
| 講義名 | 対1)教養特講 (人間社会学科へのいざない) | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 福田 哲也/佐藤 彰宣/銅直 優子/ 森脇 丈子/脇 穂積 | 開講期・曜日・時限 | 前期 月曜日 3時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 1年生 |

主題と概要

人間社会学科は、人、もの、お金などに関わるさまざまな問題を解決するために、人間社会を多角的にとらえる視点を学ぶところである。そのためには、現代社会の構造や、人々の心の動きや仕組みがどの様になっているのかについて理解を深め、人々の暮らしを豊かにする方法を模索することが重要である。これらを専門的に学ぶために必要な、人間と社会を理解する基礎的な知識を学ぶことが、この授業のねらいである。
この授業では、社会を理解するために、共同体、家族、仕事、生活、消費、働き方などについて解説する。また、人間を理解するために、パーソナリティの構造、対人関係、対人魅力、対人コミュニケーション、主観的幸福、消費行動などに関する知識と理論を社会学・心理学・その他関連領域の観点から解説する。

到達目標

社会学や心理学がどのような学問であるかが理解できる。
現代社会の問題を社会学・心理学・その他関連領域の観点から理解することができる。

提出課題

複数の教員によって担当される科目であるため、担当教員によって提出課題の方法が異なる。各担当教員の説明をしっかりと聞き、指示に従うこと。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

各教員が授業内で講評・解説する。

評価の基準

担当教員ごとに課題・試験が行われ評価点を与える。その評価点の合計と最終回の試験の合計が最終評価点となる。課題・試験の方法や評価の方法に関する詳細は、授業内に各教員から説明が行われる。

履修にあたっての注意・助言他

毎回授業に参加すること。しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってこられることを忘れぬようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業では必要に応じて資料を配付する

授業計画

1. 人間社会と社会学 (佐藤)・授業の進め方(レスポンの使いなど)、社会学と心理学の特徴・考え方
2. 人間社会と社会学 (佐藤)・「社会」とは何か:社会学の想像力
3. 人間社会と社会学 (佐藤)・「豊穡せざる結果」と「価値自由」
4. 人間社会と社会学 (佐藤)・「社会」の調べ方(量的調査と質的調査)
5. 人間社会と心理学 (銅直)・パーソナリティの心理学
6. 人間社会と心理学 (銅直)・対人魅力
7. 人間社会と企業 (脇)・日本社会における三つの生き方「大企業・地元型・残余型」
8. 人間社会と企業 (脇)・企業と会社の違い、イェムラ論と日本企業
9. 人間社会と企業 (脇)・マーケティングと営業
10. 食料から考える私たちの消費活動 (森脇)・食料生産の現状、食ロス、世界の食料援助
11. 食料から考える私たちの消費活動 (森脇)・「捨てる」行為、食料と水、売り方と買い方
12. 人間社会と心理学 (福田)・進化心理学:進化とは、血縁淘汰、互恵的利他
13. 人間社会と心理学 (福田)・ホッテイ心理学:ホッテイ心理学の考え方、Well-being
14. 人間社会と心理学 (福田)・道徳心理学:モラル、正義
15. 人間社会学科の学びのまとめ(試験)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア:PBL(課題解決型学習) | イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| ウ:ディスカッション、ディベート | エ:グループワーク |
| オ:プレゼンテーション | カ:実習、フィールドワーク |
| キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | |

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なるため、各教員の指示に従い、予習ならびに復習を行うこと。授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料への書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。
標準的な学修時間はコマ(90分)の授業に対して、予習2時間、復習2時間が必要とされている。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養特講のカリキュラムポリシー「教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群で、専門分野・領域にとらわれず時機に応じて開講します」。本授業の到達目標「の達成は、学生が社会学や心理学の基礎や考え方を理解する事であるため、生涯を通じた学びの基礎を獲得することにつながる。また到達目標「の達成は、社会経済環境の変化を感じ取り、それらを解決し、現在社会に適應するための教養を獲得することにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

アプリとしてRespon(出席・課題等のコミュニケーション)を利用できるようにしておくこと。これらはWebでも利用可能である。教員によっては別のアプリを使用する場合がありますが、詳細は授業内で案内します。
あわせて学内アドレス、パスワードを確認しておくこと。

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルスの感染状況によって一部の受講生の授業形態や成績評価方法が変更になる可能性がある。大学および担当教員からの連絡は、必ず確認すること。また対面授業参加者が、コロナウイルスへの感染や濃厚接触者になるなど、一時的に通学困難になった場合は別途対応する。その際は、当該授業回の担当教員の指示に従うこと。